

『だんじり と まちづくり』



自分たちの祭礼から
観客と共に楽しむ
祭礼への変容へ



岸和田ヤラカス会

[1] やばいぞ！ 「岸和田十月祭礼だんじり祭」

- **J R東岸和田駅周辺の変化に対応は！**
- **祭礼各団体の組織の弱体化！**
- **地域経済力の低下！**
- **祭礼と行政の価値観のギャップ！**



[2] 当会の活動目的

- 1. 「賑わい」の創出！**
- 2. 「ソーシャルキャピタル」の波濤！**
(「地域力=地車力」人・組織・地域の輪)
- 3. 「新生 岸和田」へのプロセス！**



【3】「賑わい」の創出！

1. JR東岸和田駅周辺を「だんじり特区街」へ
「だんじり祭の舞台」「だんじり祭観光スポット」
2. アンケート調査 東岸和田駅・下松駅・久米田駅
3. だんじり曳行専用衣替えのできる道路



[4] 「ソーシャルキャピタル」の波濤！

(1) 観光用リーフレット 1号・2号

ご協力：和歌山大学観光学部

岸和田ボランティアガイド

JR西日本

1. スポンサー

武田薬品工業株式会社

ハウス食品株式会社

中小企業基盤整備機構(経済産業省)

神戸クリニック

2. スポンサー

西松建設株式会社

マスターズマンション

大和ハウス工業株式会社

株式会社藪久ガス(アクアクララ南大阪)

泉州ホーム株式会社

池田泉州銀行

牛滝温泉 いよやかの郷

(2) 岸和田十月祭礼ポスターを観光用へ

(3) 祭礼時 南海ウイングバスを迂回

ご協力：東葛城地区町会

天神山地区町会

その他



[5] 岸和田の基幹産業がなくなった

1. 地域経済力が縮小
2. 泉州銀行本店が去った
3. 今後、岸和田市に基幹産業となる投資をしてくれる企業があるのか？

岸和田市・市民の「富」が減少へ...

だんじり祭の礎も減少へ...



[6] 一身独立して、一国独立する

岸和田で「自力」で出来る産業は...

1. 観光産業：観光地の条件

あ あそび心（楽しい）

い 癒し

う 美味しい料理

え 選ばれたもの（ブランド）

お おもてなし

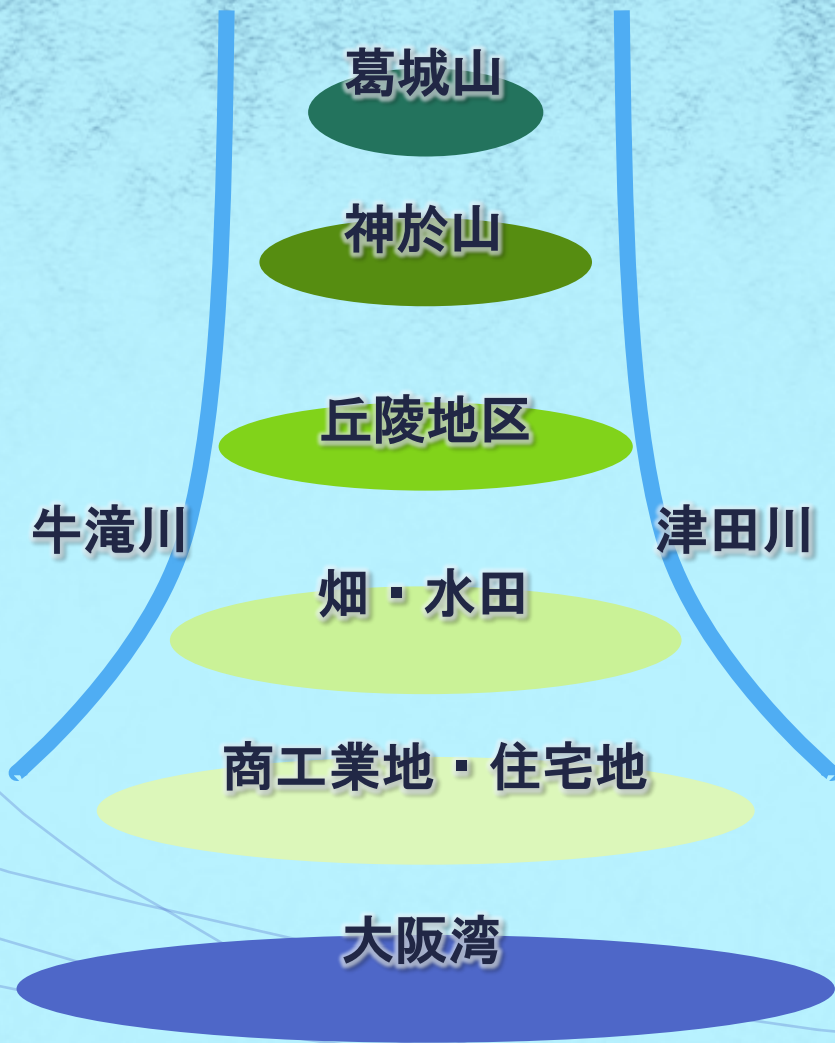
2. 農業：農業の6次産業化

岸和田市には「ポテンシャル」有り

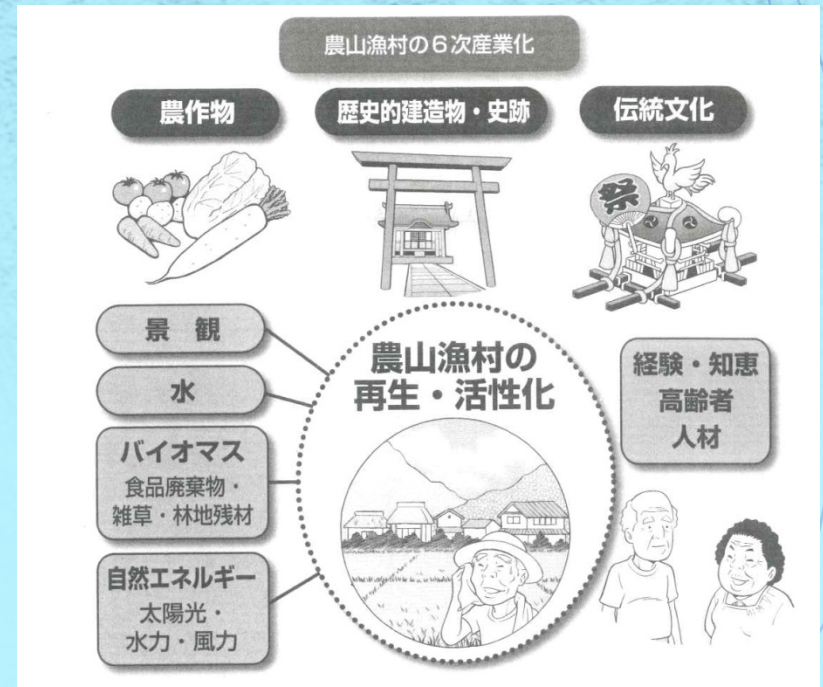


[7] 岸和田の山河は「宝の山」

(1) 水系



(2) 丘陵地区整備計画が進行中



農業の6次産業化の基地に

(3) 神於山の里山は...

水系の保全地

景観が観光地

**[8] 葛城の谷・牛滝の谷を結ぶ、
まちづくり**



葛城の谷

牛滝川

牛滝の谷

1. 二つの谷の変遷 その①

1956年

丘陵地区は一部を除き、
田畑として耕作されていた。

* 全体的に白っぽく写っている
黒っぽい部分は池、及び森

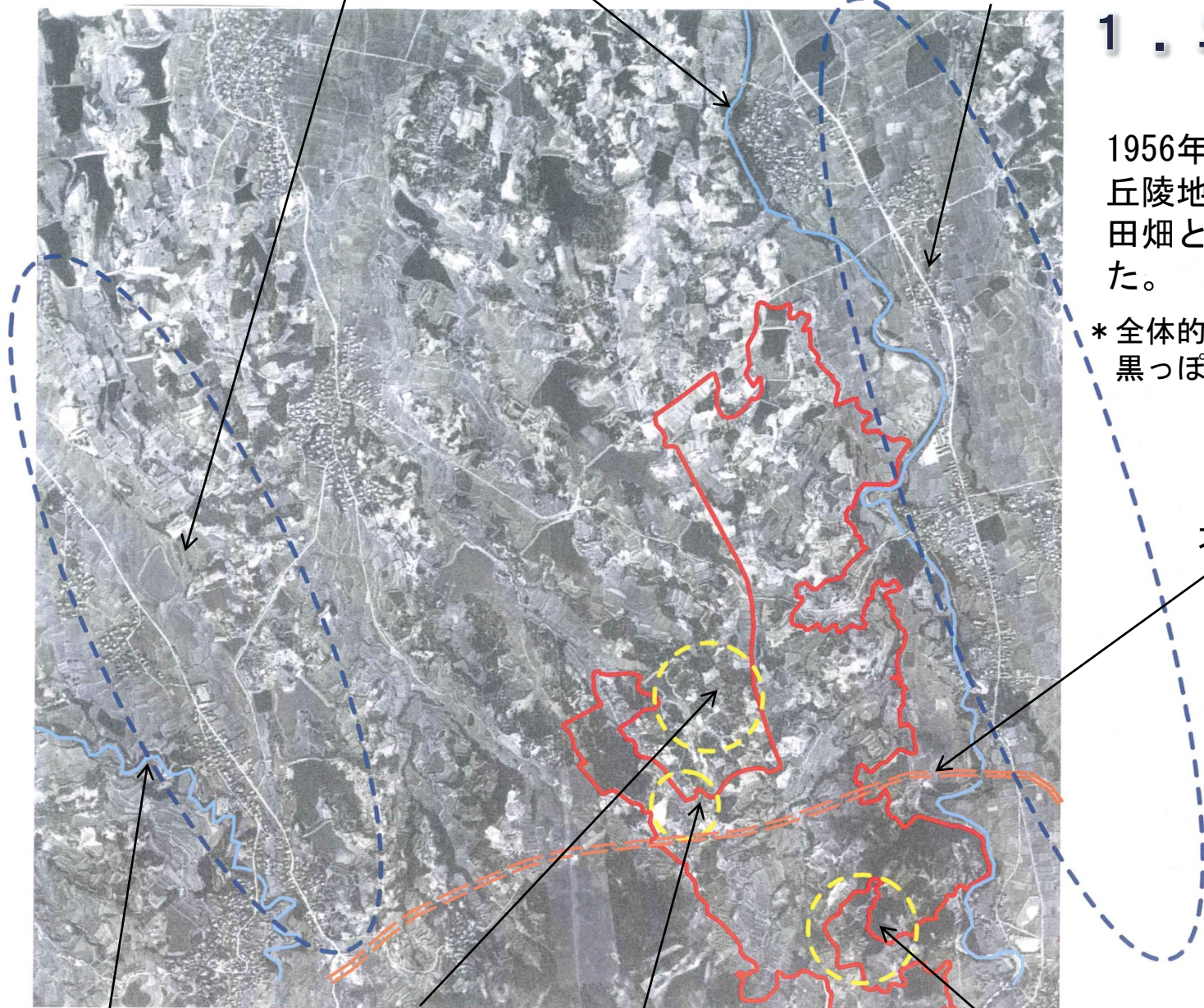
大阪外環状線

津田川

近畿職業能力
開発大学校

愛彩ランド

近畿大学泉州高校



葛城の谷

牛滝川

牛滝の谷

1. 二つの谷の変遷 その②

1975年

水田の多くは減反政策により、みかん畑となった。全体的に緑っぽい部分が多くなっている。

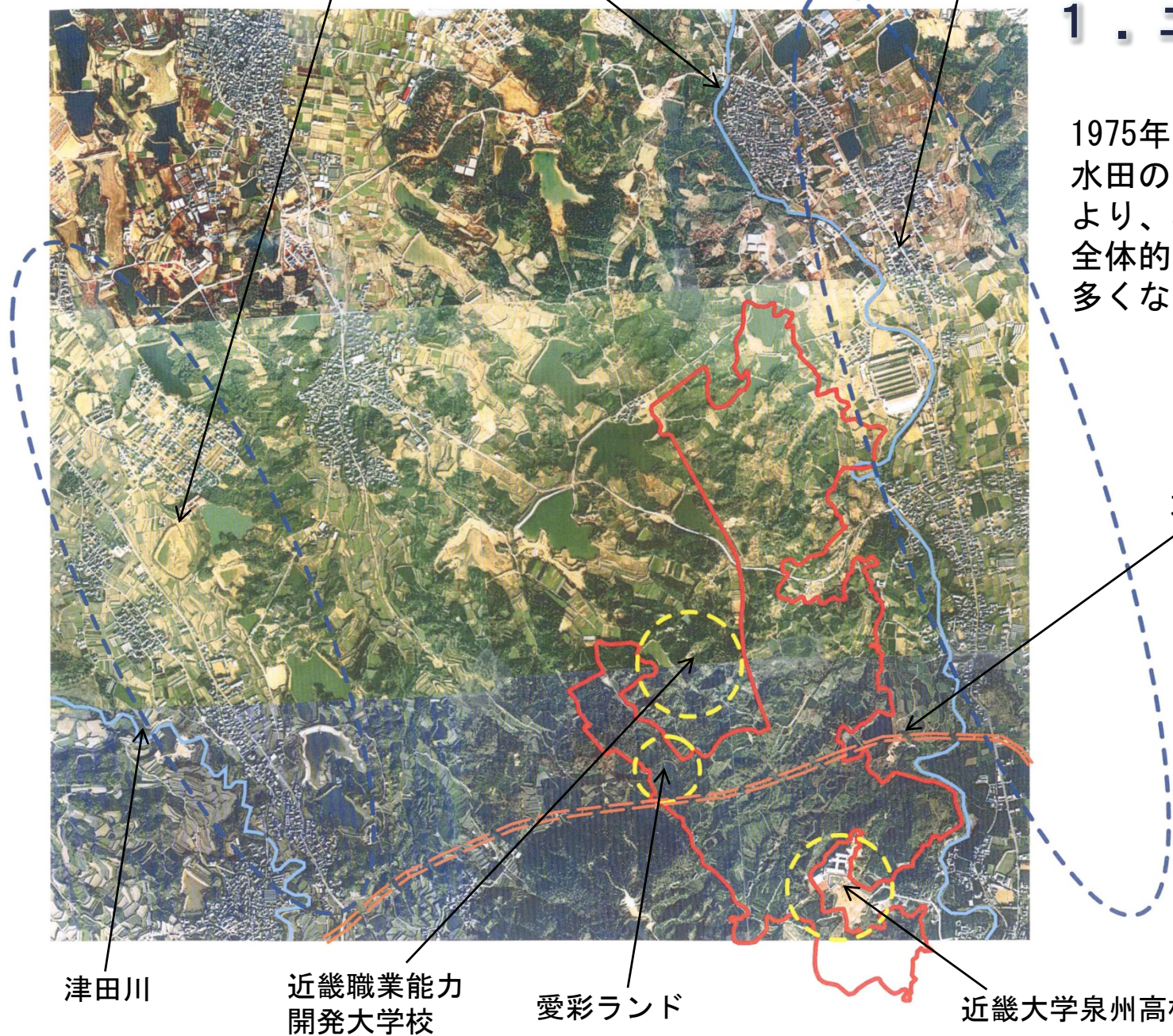
大阪外環状線

津田川

近畿職業能力
開発大学校

愛彩ランド

近畿大学泉州高校



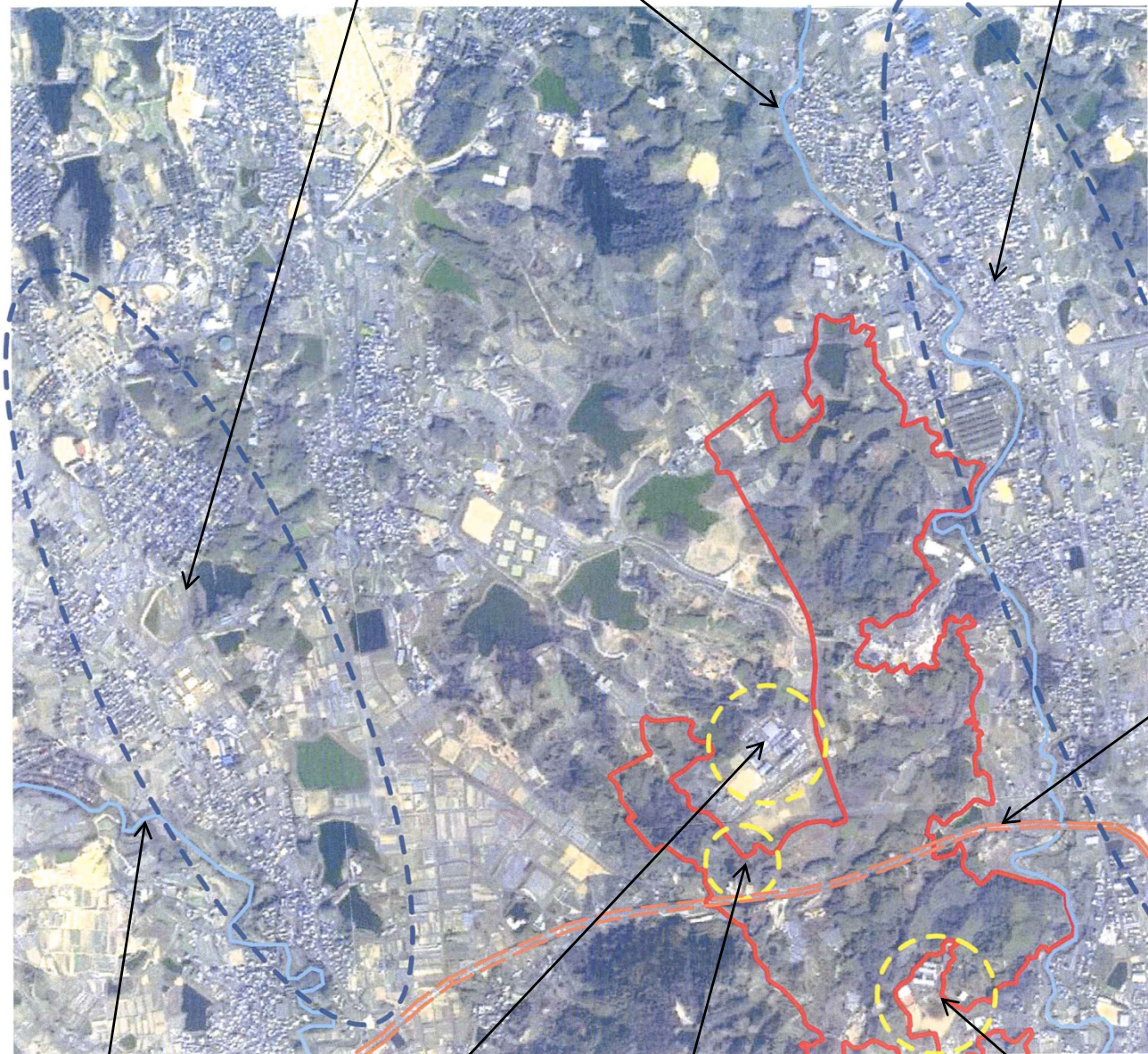
葛城の谷

牛滝川

牛滝の谷

1. 二つの谷の変遷 その③

現在
田畑の多くは竹やぶや森
となり、緑がこんもりし
た印象となっている。



大阪外環状線

津田川

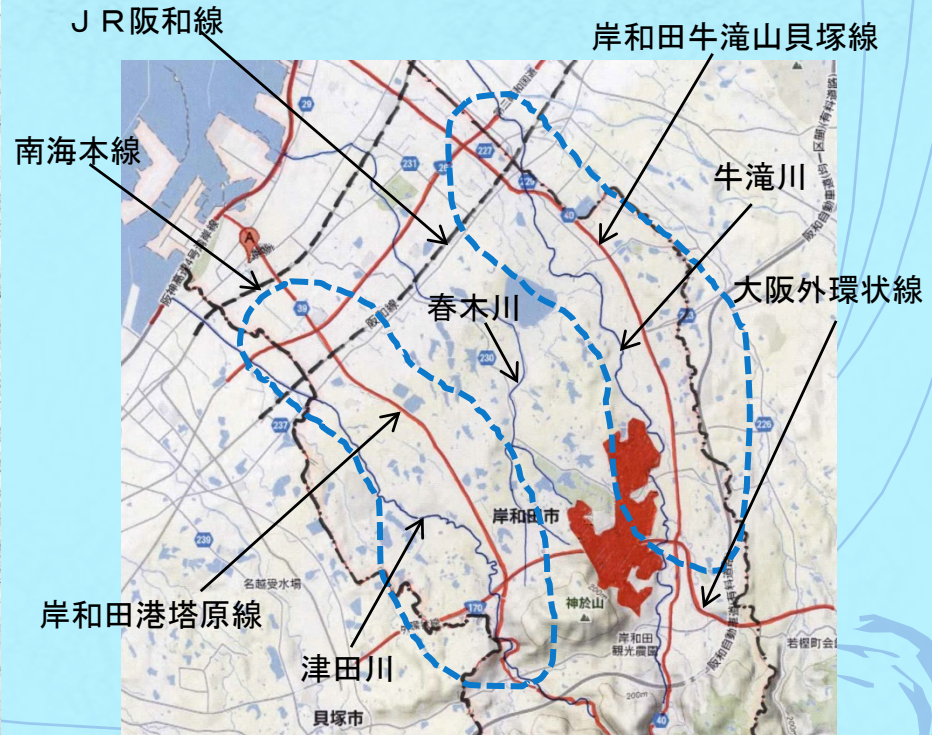
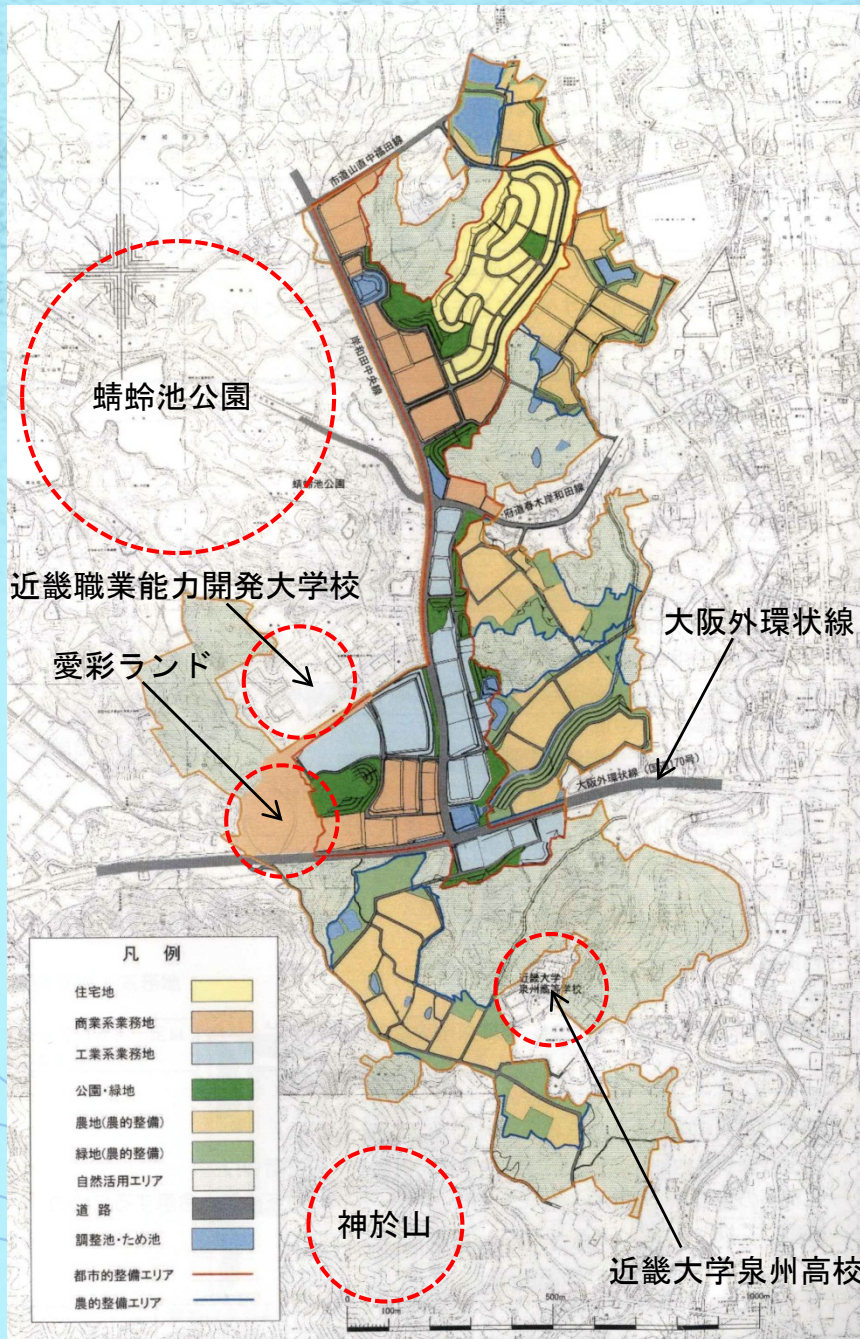
近畿職業能力
開発大学校

愛彩ランド

近畿大学泉州高校

2. 丘陵地区整備計画の概要

- 岸和田市神於山山麓に位置する約150haの区域（概ね半分が市所有地）
- うち約40ha→土地区画整理事業（市街化区域編入予定）
 - *総事業費約100億円
- // 約30ha→農地土地改良事業が予定されている
 - *総事業費約30億円



位置図

丘陵地区の典型的な風景

3 . 丘陵地区の自然資源 その①



丘があり、水があり、それを利用する人がいる

池の風景

3 . 丘陵地区の自然資源 その②

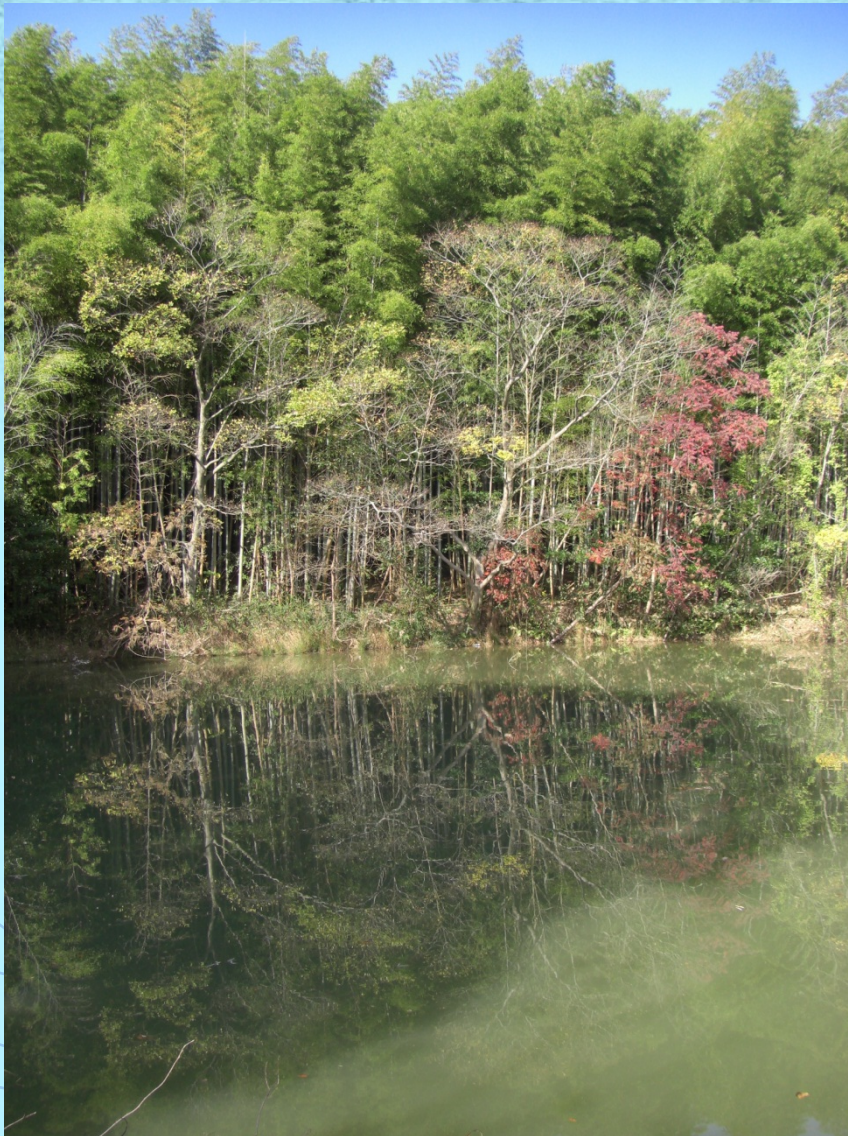


かつて利用されていた池が利用されなくなったことにより、豊かな自然資源となっている



開発地区内にある 池の周辺の自然風景

3 . 丘陵地区の自然資源 その③



残すことで活用できないか.....？

神於山からの水の恵み

3 . 丘陵地区の自然資源 その④



森の養分を含んだ水が地域を潤す

里山の風景

3 . 丘陵地区の自然資源 その⑤



丘によってできる箱庭のような空間

農地の風景-1



田んぼの風景

かつては丘の上まで米作が行われ、棚田の名残が多く見られる

農地の風景-2

3 . 丘陵地区の自然資源 その⑦



よく手入れされた竹林
周辺には放棄された竹藪も多い

緑の中にたたずむ家々

3 . 丘陵地区の自然資源 その⑧



自然と一体となった生活が営まれている

4 . 豊かな自然を活かした市民農園 その①



4 . 豊かな自然を活かした市民農園 その②



滞在型の市民農園



見晴らしの良い市民農園



道路を整備すれば車いすもOK



森の中での収穫



グリーンツーリズムによる
筍掘り

和歌山県有田川町清水地区

5 . 棚田を活かした産業・観光 その①



棚田を観光資源とした「あらぎ島」

かつてミカン畑であった棚田を山椒畑に転換し、
特産物としている





棚田を利用したイルミネーション
手作り竹灯籠にロウソクを灯して
あらぎ島を浮び上らせる



稲刈りイベント





ラベンダー畑 — ラベンダーは平地では育ちにくい

1970年代輸入香料や合成香料の普及によりラベンダー畑は瞬く間に姿を消しました。富田さんも栽培をあきらめ、トラクターでラベンダーを踏み潰し始めましたが、どうしてもできませんでした。1976年、富良野の風景がJRのポスターに採用され、その美しさを求め人が集まり始めました。

富良野 ファーム富田



斜面の風景を活かした花畑



ファーム富田では、
農場で育てた花で
ラベンダーオイル
やアロマオイル、
ポップリ、におい袋
などを販売してい
る

6 . 傾斜地を活かした産業・観光 その②



ラベンダーに囲まれる富田氏



和郷園

7. 農家の共同による地域企業の創出 その①



和郷園の沿革

- 平成 3年 木内を中心に有志5名で野菜の産直を開始
- 平成 6年 7月 BMWプラント稼働
- 平成 8年 6月 有限会社和郷設立
- 平成10年 4月 栗源パックセンター稼働
- 平成10年 9月 牛糞堆肥化ライン稼働
- 平成10年11月 農事組合法人和郷園設立
- 平成11年 4月 野菜残渣処理開始、リサイクル事業本格稼働
- 平成14年 7月 山崎記念農業賞を受賞
- 平成15年 3月 冷凍工場さあやSキッチン稼働
- 平成15年 6月 各委員会の設立（生産・交流・内部監査委員会）
- 平成16年 9月 さかき小見川農場ユーレップギャップ取得
- 平成16年11月 千葉県農業奨励賞受賞
- 平成16年12月 野菜カットセンター稼働
- 平成17年 3月 第10回環境保全型農業推進コンクール優秀賞受賞
- 平成17年11月 海外事業部設立（タイ国OTENTO社）マンゴー・バナナの取扱開始
- 平成18年 3月 株式会社ケズ（店名OTENTO）田園調布店設立
- 平成19年 9月 株式会社ケズ（OTENTO印西店オープン）
- 平成19年12月 海外事業部（OTENTO香港設立）
- 平成20年 9月 文化功労章受章



WAGOEN



平成3年木内を中心に5戸の農家で始める

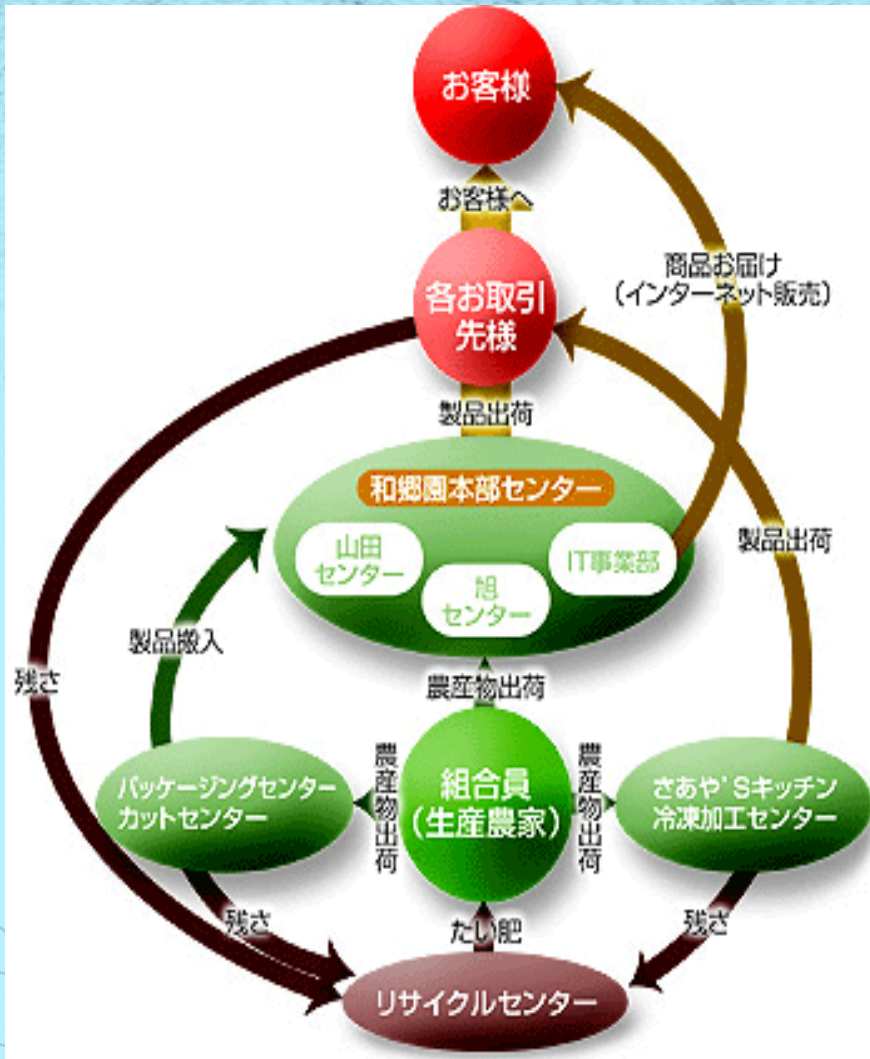


現在社員約50人、売上約50億円の企業に発展

タイに海外進出（マンゴー
バナナの栽培）

和郷園

7. 農家の共同による地域企業の創出 その②



自然循環型農業への取り組み

加工・販売による農業の6次産業化への取り組み

8 . 中国雲南省の棚田と丘陵地区の棚田 その①



雲南省の棚田の風景

8 . 中国雲南省の棚田と丘陵地区の棚田 その②

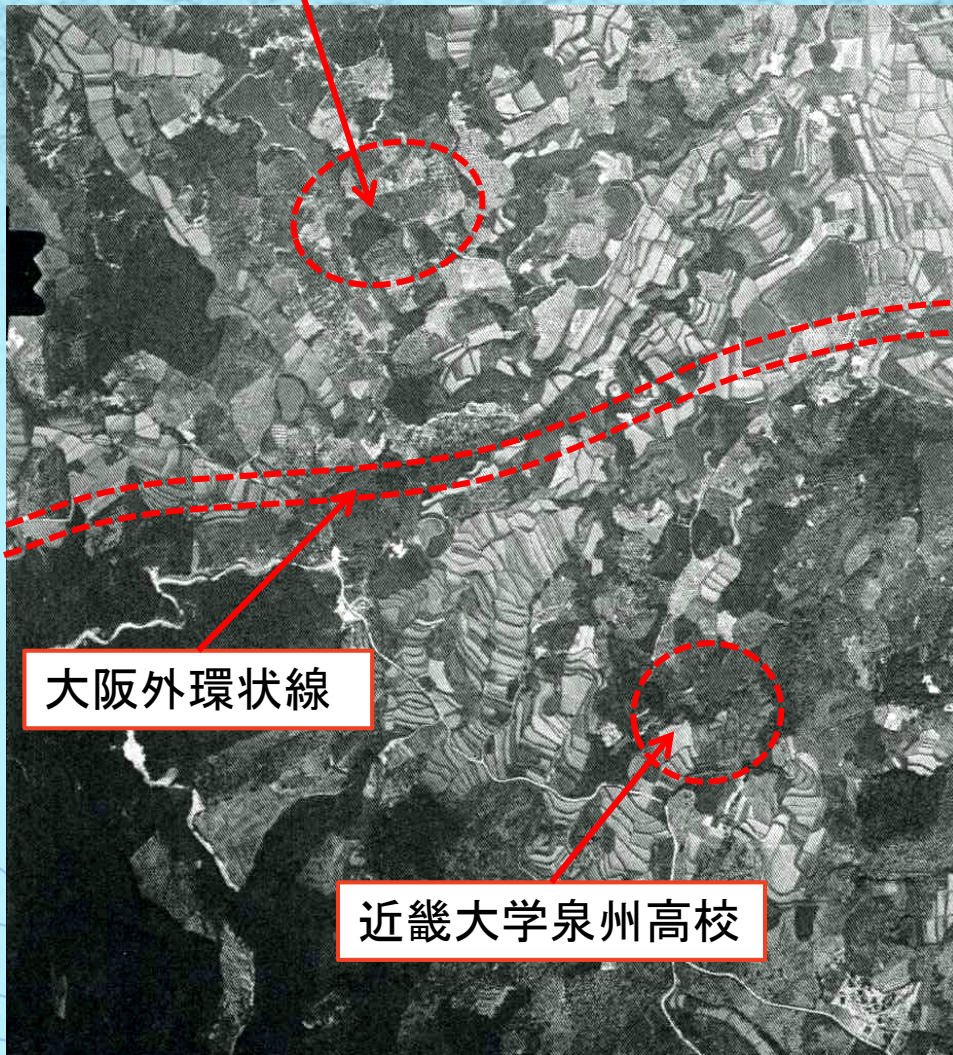


森と住居と棚田が共存し物質が循環する

水を張った棚田から立ち上る霧は山肌を上り、広葉樹林に水分が吸収される。その水は雨水と共に地下にしみ込み再び水田を潤す。
住居では、水牛・豚・鶏を飼い、それらの糞尿が水田の肥料となる。

8 . 中国雲南省の棚田と丘陵地区の棚田 その③

近畿職業能力開発大学校



丘陵地区の棚田

今では竹藪が茂り、あるいは森になっている部分も、昔の棚田の地形はほぼ残っている



1961年当時の丘陵地区

丘陵地区の棚田の現況

みんなで

かも

醸そう！

未来の岸和田